



ふ どう つよ し
不 動 剛 志

生 年 月 1984年7月兵庫県生まれ
最終学歴 2010年大阪大学大学院工
学研究科地球総合工学専
攻建築工学コース修了
業務経歴 2010年(株)東畑建築事務所
入社、現在、本社オフィ
ス設計室主任技師、BIM
推進室兼務

- 担当した主なプロジェクト
- 2010年 岩橋クリニック
 - 2010年 富田製菓中央研究所
 - 2011年 名張特別養護老人ホーム
 - 2012年 堺市文化観光拠点
(さかい利晶の杜)
 - 2013年 京都会馆
(ロームシアター京都)
 - 2016年 日本ビラー工業株式会社
三田工場増強工事
 - 2017年 京都スタジアム
(サンガスタジアム
by KYOCERA)

■青年技術者のことば

アントロポセン（人新世）と呼ば
れる人類が地球の地質や生態系
に重大な影響を与えるとされる地
質時代についての議論がされてお
り、情報通信・利用技術の発展、
疫病の流行、など建築の周りとは
てつもないスピードで変化してい
る。そうした状況で、建築技術者
は何を果たすべきか考えてみる。
建築には歴史がある。社会や文明
が作られるところに建築は必要と
され、社会や文明の変化に応じて
先人が創造した建築が歴史を作
った。また、建築は存在自体が歴史
を持つ宿命がある。
変化のすさまじい現代において、
建築が背負う歴史を「重く」感じ
るのは私だけだろうか。
現代の変化に応えるためには建築
に「しなやかさ」や「軽さ」が必
要なのではないかと感じるのは私
だけだろうか。
歴史を蔑ろにしたいのではない。
先人が築いた歴史を尊重し、それ
を土壌としてこの時代なりのしな
やかさをもって建築に向き合うこ
とで、この時代としての歴史を刻
み、次世代へ建築をつなぐための
土壌をつくる事が出来るのでは
ないか。
どうすればそれに近づくことが
できるか、この時代に建築に携わ
る一員として、考え、実践してい
きたい。

■すいせん者

永田久子
(株)東畑建築事務所
常務執行役員
本社オフィス大阪代表

サンガスタジアム by KYOCERA



さかい利晶の杜

